

といつてよい。その指導は、大変困難であろうが、早急に適応策をとることの必要性は、もちろんのことであり、中学に働きかけて、職業高校の教育内容を、出願前によく理解させ、中学での進路指導に、修正を加えるようにすることもまた、たいせつであるとのこと。

### H Rにおける進路指導の進め方

H Rは、本来、欧米の教科担任制の反省から生まれたものであり、(生徒と教師との触れ合い不足) H Rの性格をじゅうぶん生かした指導が、進路指導の出発点ともいえる。そして、その第一線はH R Tであることは当然であろう。そこで、水戸谷先生は、次の点を強調された。H R Tは、

- 1、人間としての生き方の指導の徹底を図る。(教師自身が一番よい見本である)
- 2、一人一人の生徒をたいせつにした指導をすすめる。(家庭では、たいせつな子である。学校でもたいせつな人間であるように。)
- 3、心に残る教育、かけがえのない教育を心がける。(生徒は、担任を選ばないのだから。)
- 4、すぐれた計画を求めて、改善を図る。(よい計画は、よい結果を生む。)
- 5、保護者との連携をたいせつにする。

### 進路指導についての教師の

#### 三つの常識

- 1、出来ないこと。(個人の将来の姿を予見すること。)
  - 2、やるべきこと。(発達段階に応じて最善の指導援助をすること。)
  - 3、やつてはならないこと。(生徒にかわって答えを出すこと。大人の考えで押しすすめること。)
- このように見てくると、進路指導が「教育」本来の指導と重なってくる。よく、教科学習が、本業で、その他の仕事は、つけ足しのサービスという考えをもつ教師もある。しかし、進路指導の理念、基本的性格から見ると、進路指導は、教師として、決して、軽く扱われるものではなく、教師本来の任務であるといつても過言ではない。

### 生徒理解の方法

観察法か、検査法かという議論があるが、いずれにも、長所短所があり、結局は、併用しなければならぬ場合が多い。観察法は、人間全体を、発達段階に応じて、変容の姿をもとらえることが可能だが、どうしても主観に陥りやすい。一方、検査法は、断片的で検査の実施時点の資料にしかならず、きわめて固定的であるが、客観的といえる。そのため、経験に基づく、観察法を中心にして、検査法を従にして活

用していくことが望ましい。

### 心理検査利用の注意

職業研究所の渡辺三枝子先生の話であるが、心理検査は、両刃のあるナイフのようなもので、安易に扱うと危険だという。同時に、限界がある。つまり、その検査を作り出した理論的背景でしか、ものが見えないということ。その他、得点のゆがみ、偶発的要因、採点ミス等があつて、その結果で、すべてを推測判断することは、大へん危険ということ。

### 「演習」での発表の紹介

- 1、H R用テキストによる進路指導

山形県・上ノ山高校

学校独自に、ワークブックを作製して、H Rで使用している例。これは、生徒の進路意識を高めるとともに、教師の進路指導に対する経験差を解消するために、作成されたというが、なんといつても、校内の協力体制がないことには不可能なことである。

- 2、校内体制の確立が、困難な例

F県・M高校

学年主任・H R T・進路指導部の連携が、ふじゅうぶんで、苦労している例が出され、あらためて、協力体制のない困難さを、生徒へのしわ寄せが、痛感させられた。札幌のA高校では、対立していた進路指導派と、幹旋指導

派を徐々に、改善への方向に進めた苦勞話や、その方策などの発表があつた。

- 3、新設校の体制作り

宮城県・多賀城高校

校長の熱意もあつて、教師間の足並みもそろい、まとまった進路指導が、思い切つた形で、実施されている。たとえば、土曜日には、教科授業は、全くやらずに、教科外活動に徹しているとか。年間30単位の、ゆとりあるカリキュラムで、志望別、能力別指導をしているなど。

- 4、教師及び生徒の進路に対する熱意の低調さ。

これは、演習課題の中で、一番多く提出されたもので、どの教師にも、共通した問題といえる。そこで、これに答えられた仙崎武先生(文教大)の話を列記しておく。進路意識は、

- (1) 学校全体の教育活動で養われるべきであり、しかも、つねに主体を生徒におくこと。
- (2) 生徒と教師との会議合作による年間指導計画を立てること。
- (3) 進路委員、H R役員等のリーダー養成をしていくこと。
- (4) L H Rのパターンを多様化していくこと。
- (5) その実施成果を、反省・評価すること。

### 中央講座をふりかえつて

一週間のスケジュールは、綿密かつ